

新生児・未熟児医療における病院と地域の 連携について

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅
ケアシステムに関する研究)

研究協力者 松 田 博 雄

要 約：発育、発達の障害において、high riskと考えられる新生児集中治療室(NICU)退院児において、医療機関と地域における児およびその家族を援助する社会的資源の中心と考えられる保健所との連絡表と家庭訪問記録を作成し、医療機関と保健所との連携を計った。家庭訪問記録はNICUでの指導の再評価や退院後の経過観察外来で役立っている。

見出し語：医療機関、保健所、発達障害、地域ケア

保健所連絡表と家庭訪問記録の作成：当院NICUでは昭和60年の開設当初から、地元の三鷹保健所保健婦と連携をとり、特に問題のある母児については家族の了承を得て、退院前から家族の地域における社会適応が円滑にいくよう援助を行ってきた。また同時に、三鷹市以外の居住者で退院後問題のある児および家族については家族の了承を得た後、院内で使用している退院時看護要約(Nurse's Summary)のコピーを、保健婦の訪問指導の際役立つようにとの考えで、居住地の所轄の保健所に送付した。しかし、退院時看護要約はその内容がおもに入院経過の詳細であり、地域の保健婦が家庭訪問する際にはあまり役立たないと考えられ、また訪問結果がどうであったかが電話での連絡が多く、記録として残らず、外来での経過観察や入

院中の指導が適切であったか否かの評価をするのに不都合であることから、家庭訪問記録を付けた保健所連絡表を作成した。

この連絡表には頭蓋内出血など発達に影響を及ぼす事項や、未熟児網膜症、貧血、くる病、血管腫、鼠径ヘルニア、臍帯ヘルニアなどの継続する問題点とその後の治療や経過観察の予定について、母親の援助者の有無またその関係、母親および家族の児の受け入れ状況や当施設での指導内容等、具体的に問題点を記載するようにした。また連絡表の送付については、1.家族の了承を得ること、2.光線療法のみというようなほとんど問題がない場合を除いて、原則として全例に送る、3.児には問題がないと考えられても、家族に問題のある場合には送付する、4.家庭訪問に間に合うように、退院前または退院日

には送るようにする、5.継続する問題、養育上の問題点を明確にし、どのような援助を望んでいるのか具体的に記載するように努力した。

結果：昭和63年10月からこの連絡表を使用開始し、平成元年12月までに103件を送付し、平成2年2月現在58通の返信があった（症例によっては返信を希望しないこともある）。返信の家庭訪問記録は、児及び母親の家庭内での様子がわかり、退院指導の評価やフォローアップ外来での指導に役立っている。

考案：近年発達障害児の早期発見および早期療育の必要性、重要性が広く認識されるようになり、障害を持っているまたは疑いのある児および家族には地域における様々な援助が望まれ

る。NICU退院児はその意味ではハイリスク児が多く、多くの児は医療機関での定期的なフォローアップをうけていることが多い。しかし、反面それらの児は保健所などでの定期検診を受けていないことも多いとの報告もあり、地域の保健所をはじめとする医療機関以外の社会的資源との結びつきが少ないように思われる。NICUに入院する児およびその家族は、児の医学的な問題のみならず、心理的、経済的な問題を抱えていることが多く、保健所保健婦をはじめとする地域での援助が必要であると考えられる。養育医療、育成医療交付と同時に医療機関と保健所との“連絡表”を使用して、両者の連携をはかるシステムの形成が必要があるのではないかと考え、今後さらに検討したい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:発育、発達障害において、high risk と考えられる新生児集中治療室(NICU)退院児において、医療機関と地域における児およびその家族を援助する社会的資源の中心と考えられる保健所との連絡表と家庭訪問記録を作成し、医療機関と保健所との連携を計った。家庭訪問記録はNICUでの指導の再評価や退院後の経過観察外来で役立っている。